

## ■男だぜ、ラインメンー夏に鍛える④

### ゴリゴリ魂ー帯広畜産大

8月11日、帯広市稲田町の帯広畜産大のグラウンド。道内の大学では唯一の芝のフィールドで帯広畜産大アメフト部の強化練習が始まった。集まったのは選手19人のうち15人と、去年の主力選手らOB8人。2020、21年とコロナ禍のために思うように活動ができず、今年も部内に陽性者が出て7月19日から一週間の活動休止に見舞われた。再開2日目のこの日は、待ちかねた選手たちの熱気が緑の芝の上にみなぎった。

帯広畜産大自慢のランプレーを支えるオフENSEライン（OL）は6人。4年生が、去年のベストイレブンに選ばれた180センチ、102キロの相澤秀輔（帯広柏葉高）1人、3年生がラインリーダーの160センチ、100キロの武藤雅嗣（東京・淑徳高）ら2人、2年生が2人、そして1年生が1人。この日は、1人が新型コロナウイルスの濃厚接触者として自宅待機のため、5人での練習になった。

ポジション別に分かれると、防具に身を包んだOB4人も加わり、ダウンフィールドブロックの練習が始まった。「もっと体を前に」「いいね」。上級生やOBから盛んに檄が飛ぶ。OBがラッシュ役を買って出たパスプロテクションでは、「腰を体に乗せるように」と細かな指示も飛んだ。午前10時の気温は早くも26.6度。選手の顔からみるみる汗が噴き出た。

武藤リーダーによると、帯広畜産大OLのモットーはシンプルに「最後までやりきること」。ランプレーの時はダウンフィールドまで懸命に走り、笛が鳴るまで押し続ける。パスプレーの時はQBが投げ終わるまで体を張って守り切る。OL魂を「普段の練習から繰り返し、体にしみこませている」という。「今年はCとGが重いので、中のプレーはゴリゴリ押しますよ」と武藤リーダーが自信たっぷりに宣言した。去年の北海道大戦で先制TDを奪ったのもインサイドのランプレー。相澤、武藤の100キロコンビが今年も、と待ちわびる。そして「バージョンアップもしたい」と武藤リーダー。両Tの脚力を生かした外のランの準備も余念がない。

もう一つ、帯広畜産大OL陣には大きな目標がある。「北海学園大と北海道大の2強では、北海道のフットボールはつまらない。僕らが勝って盛り上げないと」と武藤リーダー。「ラインがどれだけ前に押せるか。2強に割って入るのは僕ら」と力を込めた。

全体練習終了後、OLの面々が特別メニューを始めた。名付けて「ストロングマンドリル」。手首ほどの太さのロープをたぐり寄せたり、重機用の大型タイヤを持ち上げたり。無酸素運動で追い込むという。「つらいときに5人で助

け合うためのドリル」に、決意がにじんだ。



手加減無しのOBのラッシュを受けてパスプロテクションの練習をする  
帯広畜産大のオフェンスライン